

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

最近、私たちはもっと自分たちの歴史を学ぶ必要があるのではないかと考えています。以前、NHKの番組で太平洋戦争のことが放送されていました。そこでの戦況が不利になってからの行動パターンが現代に通じると感じられました。と言うのが、過去から今も続く他国との経済競争において、繊維・造船・鉄鋼・テレビ・自動車・半導体等多くの分野でトップ集団の仲間入りをした後の衰退のパターンが戦争と共通するよう感じられたからです。また、現在の日本人（特に若者）は昔に比べて、精神的にもだめになってきたと言われてましたが、震災後の節度ある行動等は多くの海外の国からも称賛されますし（それだけ海外の国々はひどいと言うこと）、まだまだいける（大丈夫）と安心された方も少なくないではありませんか。江戸時代末期から明治時代それ以降も多くの欧米人が日本を訪れましたが、「日本人は自分たちに比べて貧しく技術水準は劣るが、高い精神性や独自の文化を持っていて素晴らしい」と称賛する言葉を多く残しています。こうした言葉は、一部に過大評価や勘違いもあるとは思われますが、素直に評価し高めて行くべきものです。このように長い時間をかけて形成されたものは良いことも悪いことも簡単には変わらないものです。だから自分個人は別として社会の中で優位にたつには、その社会の傾向を知った上で活動をした方が良いでしょう。それには歴史を知ることが合理的です。ただし、学校で学ぶ歴史は経済的側面が不足していると思われまます。戦争が強いが経済が貧弱な国が大きくなることは難しいからです。西洋の例では、小国で農業国であったオランダが活躍できた要因の一つには、大国のスペイン・ポルトガルから裕福なユダヤ人が迫害を逃れてオランダに移ったからだと言われてます。藤原氏、源氏、平家、織田信長など・・・歴史で活躍した多くの人物や集団は交易・利権など経済的側面からも他より優位に立てたと推測できます。私たちの日常の活動も政治や信条によることよりも経済的理由が多いからです。歴史は起こった出来事の要因を推理することから学べることが出来ます。そうすると現在に活用できるようになります。生きた学問に成ります。そうでなければ単なる雑学に過ぎません。本来歴史の勉強は面白くて役立つものです。解釈がいくつもあってもいいのです。

① [経済的な側面から歴史を見てみよう]

② [自分たちに染みついた強みと弱みを知って優位になるような行動に結びつけよう]

今月の結論は上の2点です。②に関しては会社や個人レベルの応用が考えられます。最近、サイゼリヤ創業者である正垣泰彦会長の著書が発売されました。『おいしいから売れるのではない 売れているのがおいしい料理だ』（日経 BP 社 税込 1470 円）この本によると、会社の活動分野を大衆イタリア料理に限定しその中で徹底的に強みが生きるような活動が記載されていました。単純によそを真似た行動はしない。仮説、実行、検証の中から自分で作っていく。しかし方向性が一緒の上位の企業はじっくりと研究する。しっかりした芯があるからやる事がぶれない。良書です。中小企業には必要なことでしょう。

同様なことを CoCo一番屋の創業者の宗次徳二氏も講演や著書で 小さな会社は本業を徹底してやりなさい。よその会社の動向など気にしないで自社がどうすれば発展するか考えるよう専念すること。引退するまで業界団体の活動や趣味は後回し のようなことを説いてありました。

ところで、数ヶ月前からワープロの音声自動読み上げ機能を使用しています。たまにおかしなところもありますが、かなり優秀で校正作業の時間短縮に役立っています。（最終確認を怠った先月(96)号では初回送付分の1ヵ所に余分な文字が残ったままでした。お詫び申し上げます）。さらに、今回の原稿作成には音声入力ソフトを一部分に使ってみました。特に面倒な初期設定をしなくてもかなり正確に言葉を認識変換してくれます。徐々に使う機会をふやして行こうと思います。